

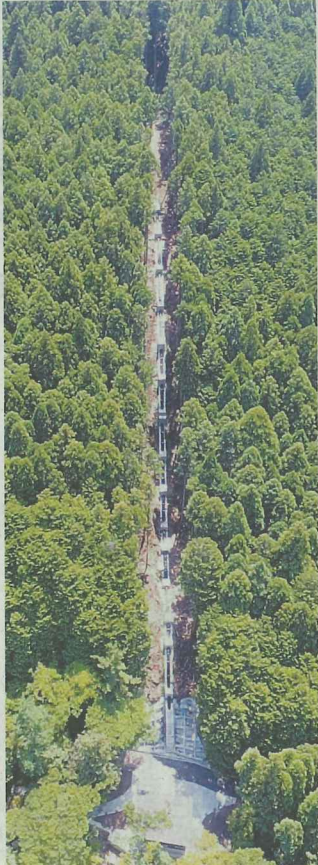
(第3種郵便物認可)

天気									
きょう	6時	9	12	15	18	21	24	あす	
伊賀	37/25	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☀	34/25
名張	37/25	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☀	34/25
津	35/28	☀	☀	☀	☀	☁	☁	☀	33/27

週間天気														
伊賀														
4日(日)	34/24	☀	5日(月)	33/24	☀	6日(火)	32/24	☀	7日(水)	32/23	☀	8日(木)	32/23	☀
名張														
4日(日)	34/24	☀	5日(月)	33/24	☀	6日(火)	32/24	☀	7日(水)	32/23	☀	8日(木)	32/23	☀

# 馬野川から全長1キ。超の導水管

標高差76・7分の取水口と発電所を結ぶ全長1キ。を超える導水管(みえ里山エネルギー提供)



発電機などを説明する松崎将司社長  
—伊賀市奥馬野の馬野川小水力発電所で



**伊賀広域** 伊賀市奥馬野の馬野川で「みえ里山エネルギー」(松崎将司社長)が運営する「馬野川小水力発電所」の完工式が1日行われた。馬野川では1919年から58年まで水力発電所があり、約60年ぶりの復活となる。松崎社長は「先人に習って住民の豊かな生活に資するよう地域資源の恩恵を地域に還元していきたい」と話している。【衛藤達生】

# 60年ぶり水力発電復活

## 中部電へ年間95万キ。ワット時

2013年5月からマツザキの本社がある阿波・布引地区の河川で発電可能な地点を探し、馬野川に行き着いた。「当時は馬野川に発電所が普あったことを知らなかった」という松崎社長。地元の人から発電設備の跡があることを教えられ、地元住民自治協議会と

総事業費約3億7000万円をかけて完成した馬野川小水力発電所は標高461・5分の取水口から全長1080分の導水管で標高384・8分の発電所に水を送って水車を回す。年間で一般家庭260軒の電気使用量に相当する95万キ。ワットの発電を見込む。発電した全量を中部電力に売電し、電力を小売りする「みんな電力」(東京都世田谷区)に融通される。松崎社長は同市で54年から営業する土木建設会社「マツザキ」(下阿波)の3代目社長でもある。近年、主力だった公共事業の受注が落ち込み、土木以外の事業への参入を模索。他の土木会社も参入していた小水力などの再生可能エネルギーによる発電事業に目を付けたという。

協働して馬野川小水力発電を復活させるプロジェクトを開始した。三重大との共同研究や県や市など関係行政機関との調整、住民説明会などを経て、昨年6月から建設工事を開始し、約6年かけて完成にこぎ着けた。松崎社長は「現代の技術水準でも困難な建設工事。100年前の先人には(今の)技術に勝る地域への思いがあったに違いない」と振り返った。松崎社長によると、発電所がある布引地域には他にもバイオマスや風力発電施設があり、再生可能エネルギー発電が盛んな地域という。松崎さんはこれからの地域貢献のあり方について「まずは地域の皆さんと話し合ってから」としつつ、「この施設を含めて多くの人に布引の魅力を知ってもらえるよう、周囲の景観を整備してはどうか」と話していた。



発電所建屋でテープカットする松崎将司社長(中央)ら—伊賀市奥馬野の馬野川小水力発電所で

業施設で、店舗や奥の倉庫などで取材。従業員に質問してメモを取った。県立名張高校と

北陸政府

手術室で機器の説明を受ける高校生  
—いずれも名張市百合が丘西1の市立病院で